この人にちょっとインタビュー

佐々木道子さん
鈴木咲也香さん

Interview

# 高齢者の交通事故・詐欺被害をゼロにしたい

高齢者安全・安心アドバイザーの佐々木さん（左）と鈴木さん（右）。

仙北警察署で高齢者安全・安心アドバイザーとして活動する西明寺出身の佐々木道子さんと神代出身の鈴木咲也香さん。アドバイザーは、仙北市内の自宅を1軒1軒訪問し、高齢者を中心に交通事故防止や詐欺被害防止を呼びかけたり、公民館などで地域の方々に講話を行います。交通事故・詐欺被害ゼロを願い、日々訪問活動を行うお二人にお話をうかがいました。

## 生まれ育った地元で役に立ちたい

アドバイザー歴1年目の鈴木さんはもともと介護職だったとのこと。「高齢者と話すのが好きで、別の角度から高齢者に関わって何か役立つことができないかと思った」とアドバイザーになったきっかけを教えてくれました。また3人の子どもを持つお母さん。「子どものつながりから幅広い世代の交通安全への意識を高められるのではないか」と話します。

一方、アドバイザー歴9年目の佐々木さん。「過去に大きな交通事故にあった」と衝撃的な一言、「誰にも交通事故にあってほしくないし、自分の生まれ育ったところで交通事故をゼロにする活動ができたら」と続けます。また「振り込め詐欺も防ぎたい。自分でためたお金を人に渡すのではなく自分のために使ってもらいたい」と願います。

## 地道な訪問活動

仙北市の世帯数は3月末で1万533世帯。市内すべてを二人で訪問するには途方もない数ですが、それでも訪問活動を続けます。

「皆さんテレビや新聞で情報を得ているので、すでにわかっているが、そこから1歩踏み込んだ情報を説明し、再確認の意味で話を聞いてほしい」と佐々木さん。

取材に訪れた日は角館在住の80歳代の女性のご自宅に訪問していました。1年ほど前にも訪問したとのことで女性と雑談も交えながら、チラシと反射材を手渡しながら車に乗る時はシートベルト、不審な電話はすぐに切るなどを再確認。「2月頃、電話に出るとパソコンとか携帯電話はあるかと聞かれた」という女性。電話を切ってこれって詐欺かなと思い、警察署に電話しようとしたそうですが、緊張してできなかったとのこと。先日アドバイザーが訪問したときに話すことができて安心したといいます。

女性が経験した不審な電話。次に巧妙化する詐欺の手口をご紹介します。

## お金の話がでたらそれは詐欺

「何年生まれ？家族は何人？年金はどうやっておろしに行く？」。電話口でこう聞かれたらついつい答えてしまいそうになりませんか？と佐々木さん。今の詐欺の手口は、まったく関係のない話から言葉巧みに個人情報を聞き出すそうです。また、パソコンやスマホを使う高齢者も増え、そこを狙った詐欺も増えているそう。メールに書かれてあるアドレスを開くと「ウイルスに感染しました。除去するにはお金がかかります。コンビニで電子マネーを買って、裏の番号を教えてください」。よくわからないが不安に思って、言われるがまま行動して詐欺にあってしまったという事例も多いそうです。鈴木さんは「周りに相談できる人がいると、そこで詐欺だと気づくことができるが相談できなかったりすると不安のまま過ごさないといけなくなる。そういう時は相談窓口に電話して」と話します。

アドバイザーの目印は、身分証と高齢者安全・安心アドバイザーと書かれたバッジとジャンパーやポロシャツ！

## 日々の活動の原動力

すぐに結果は出ない日々の活動。訪問先での皆さんの言葉が原動力になっているようです。

「過去に訪問した家で、覚えてくれていたり、前のチラシをテレビのところに貼ってるよと声をかけてもらうと嬉しい」と佐々木さんは笑顔で語ります。

また、鈴木さんは訪問した家で「ご近所さんが来たって言ってらっけな。その人だが？」と声をかけてくれたそう。「皆さんの家に行けなくても、ご近所さん同士で話が広まっていて、安心する」といいます。「手渡しした反射材をつけてくれているのを見かけるとやりがいを感じる」とも話します。

## 最後に

お二人に改めて交通事故と詐欺に注意するポイントを聞きました。

「暗くなると目から入ってくる情報が少なくなる。明るい服装や反射材をつけて、少しでも見つけてもらえるように工夫してほしい」と鈴木さんは呼びかけます。詐欺について佐々木さんは「高齢者に限らず若い世代でも被害にあう方がいる。電話でお金の話をされたら電話を切る。個人情報も絶対に話さないで」と強く話します。鈴木さんも続けて「知っている名前を出して相手の警戒心を解いてからお金の話をしてくる場合もある。どんな相手でもお金の話をされたらそれは詐欺」と話します。

生まれ育った地元で高齢者の交通事故・詐欺被害ゼロを目標に、これからも訪問活動が続きます。

相談は仙北警察署（☎53-2111）まで

交通事故・詐欺被害ゼロを願い、佐々木さんと鈴木さんの地道な訪問活動は続きます。



市長のまちづくり No.180 日記

# 『思うは招く』

仙北市長　門脇　光浩

今から7年前、「TEDx札幌」（北海道・北翔大学）で行われた、植松努さんのスピーチを紹介します。

※

～思うは招くと言うお話です。僕のお母さんが中学の時に教えてくれた言葉で、思ったらそうなるから、思い続けることが大事だよ、そんな意味です。僕は今、リサイクルに使う機械を生産する会社の社長をしています。その傍らで宇宙ロケットも開発しています。でも僕にとってロケットは夢ではありません。ある目的の手段です。

僕のお婆ちゃんは樺太生まれです。戦争で日本円が紙くずになった経験から、お金があったら貯金などしないで本を買って読みなさい、その知識は誰にも奪われないからと話してくれました。お爺ちゃんは優しい人で、よく一緒にテレビを見ました。アポロの月面着陸の放送で、宇宙時代が来たと喜んでいました。僕の人生は二人の影響が大きいと思います。

※

僕が初めて立ち上げた会社は、思った以上に大成功しましたが、慢心から信頼を失い借金をつくりました。そんな時に青年会議所に入会し、仲間づくりや社会貢献活動に打ち込みました。ある日、児童養護施設を訪ね、親から虐待を受けて入所した子どもたちと遊びました。その中の一人が自身の夢を話してくれて、それが親とまた一緒に暮らしたい、でした。こんな目にあっているのに理解できませんでした。ふと小学校の記憶が甦りました。僕はある先生から嫌われていました。僕の夢、お婆ちゃんのお話もすべてを否定されて…。その先生の口癖が〝どーせむり〟でした。この言葉は人間の自信や可能性を奪う最悪の言葉です。僕は〝どーせむり〟をなくさなければいけないと思っています。ロケット開発などは〝どーせむり〟の代表です。僕にとってロケット開発は、この言葉を撲滅する手段です。

※

一人ではできないかもしれないから、出会いがあります。足りていないから助け合うんです。そんな仲間とロケットづくりを続けます。皆さんもどうか〝どーせむり〟を世界から撲滅するために、挑戦を諦めないでください～。

# みんなで取り組む エスディージーズ SDGs vol.10

**地域の未来のために、私たちができることはなんだろう？**

あたり前の暮らしをこの先もずっと続けるために、私たち一人ひとりが考え、行動に移すことが大切です。SDGsは、“誰一人取り残さない”社会を実現する世界共通目標です。

全部で17個あるSDGsの目標のうち、今号は「目標9」をご紹介します。

問 仙北市地方創生・総合戦略室　☎43-3315

17の目標から今回紹介するのは…

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

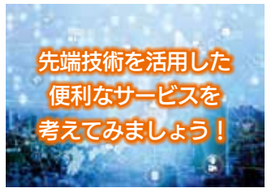
## SDGs目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう

「人口減少」、「超高齢社会」、「消滅可能性都市」など、負のキーワードが飛び交う世の中で、仙北市が持続していくために何が必要か。その答えの一つとして、技術革新の基盤をつくり、新たな産業を創出する試み、「仙北市スーパーシティ構想」を提案しています。

地域課題に対して何も手を打たないことは、現状維持ではなく、気づかない間に衰退に向かうこと。「今の暮らしのままで十分」という考え方では、その暮らし自体が維持できなくなるかもしれません。

「個人情報の漏洩」、「超監視社会」といった不安の声もありますが、スーパーシティにおけるサービス提供は、セキュリティ対策と本人の同意が大前提です。

市民の皆さんと話し合いを重ねながら、皆さんに求められる便利なサービスを増やすことで、「しあわせな未来のいなか」を目指します。財政面でも国の支援が見込まれる「スーパーシティ区域指定」への挑戦！！ぜひ皆さんの応援をお願いします。

**問題になっていること**
- 生産年齢人口の減少
- 若者の市外流出
- 各種産業の生産額低下

**私たちにできること**
- 仙北市が取り組んでいる「スーパーシティ」について調べてみる（10～11ページ参照）。